

## 命にかかわる重大な危険を何ら解決出来なかった安全衛生委員会にもものもうす！！

大垣運輸区では、昨年のダイヤ改正から名古屋駅に留置してある列車を出区点検していました。点検する箇所は隣接線を貨物列車が通過し非常に危険な中での作業が行われていました。

私たち東海労大垣班は、この作業は大きな問題があるとして現場管理者に改善するように伝えましたが、何ら改善されません。私たちは、この問題の解決のため、地本に伝え、会社に改善を求めました。さらに労基署へも足を運び問題解決に向け行動してきました。いつ触車事故が起きてもおかしくない状況から一刻も早い解決を目指し取り組んできました。

### いっこうに問題を解決しようとしなかった会社

私たちの訴えにも関わらず、会社回答は危険作業を「現行のままとする」とし、何ら改める姿勢を示すことはありませんでした。

そのような状況を何とか改善するため、田城参議院議員と共に厚労省と国交省に危険な作業を止めさせるよう訴えました。同時に名古屋でも中部運輸局に要請行動を行いました。

それによって名古屋駅での危険作業が改められたのです。

### ユニオン分会情報にみる驚きの内容

先日、ユニオン大垣分会情報が掲出されました。その内容をみて驚きました。

『平成26年4月から安全衛生委員会で議論してきた。』『貨物列車の通過時刻を記載した行路別KY帳票を作成』と書かれていました。これがユニオン役員のいうところの安全の確保だなんて呆れて言葉も出ません。

### 触車事故が起こってからでは遅いのです！

安全衛生委員会で安全の確保のためこの1年間継続して議論し、なおかつ分会としてもユニオン名古屋地本にも意見を伝えてきたと書いてあります。そもそも安全衛生委員会で議論になったのか疑問ですが、命に関わる問題を解決できないような安全衛生委員会とは何なのか、安全衛生委員会そのものが問題ではないですか。

その後、2月27日に大垣運輸区に「名古屋駅における床下点検の変更について」の掲示が貼られました。

この事は、賢明なユニオン組合員の皆さんならお解りだと思います。安全衛生委員会で話しているだけで問題が解決しなかった場合、労働組合として、どのように会社と向き合うかが問われたのです。

### あらゆる手段によらなければ解決しない！

**組合員の「声」「要求」に真摯に向かい合い改善を求め東海労は取り組みます。**